

1 導入編



Expressワークステーションや添付のソフトウェアの特長や導入の際に知っておいていただきたい事柄について説明します。また、セットアップの際の手順について順を追って説明しています。ここで説明する内容をよく読んで、正しくセットアップしてください。

Expressワークステーションの特長(→2ページ)	Expressワークステーションの特長や添付(または別売品)のソフトウェア、および各種オプションとソフトウェアの組み合わせによって実現できるシステム管理のための機能について説明しています。
導入のポイント(→4ページ)	Expressワークステーションをご利用されるシステムを構築する際に知っておいていただきたい事柄や、参考となるアドバイスが記載されています。
ユーザ登録(→8ページ)	ユーザ登録の方法について説明しています。Express5800シリーズ製品に関するさまざまな情報を入手できます。ぜひユーザ登録をしてください。
セットアップ(→9ページ)	Expressワークステーションをお使いになれるまでに必要な手順について順を追って説明しています。

Expressワークステーションの特長

お買い求めになられたExpressワークステーションの特長を次に示します。

高性能

- Intel® Celeron® Processor(466MHz)搭載
- 高速100BASE-TX/10BASE-Tインタフェース(100Mbps/10Mbps対応)
- 高速ディスクアクセス(Ultra ATA対応)

高信頼性

- バスバリエーションエラー検出
- 装置内の温度監視機能
- 他人使用防止(BIOSパスワード)機能
- ファン回転監視機能
- 電圧監視機能
- メモリ監視機能(1ビットエラー訂正 / 2ビットエラー検出)
- メモリ縮退機能(障害を起こしたDIMMの論理的な切り離し)
- 盗難防止(セキュリティロック (添付品))

保守機能

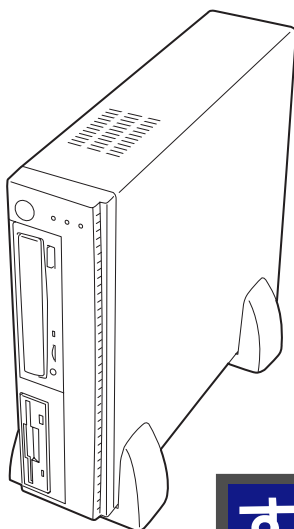
- オフライン保守ユーティリティ
- DUMPスイッチによるメモリダンプ機能

豊富な機能搭載

- グラフィックスアクセラレータRAGE IIC対応(最大解像度1280×1024)
- サウンドスピーカ内蔵
- オーディオ端子(LINE-IN/LINE-OUT)搭載
- EL Torito Bootable CD-ROM(no emulation mode)フォーマットをサポート
- POWERスイッチ機能の設定
- ソフトウェアPower Off
- リモートパワーオン機能
- AC-LINK機能

省スペース/省エネ機能

- 85(W)×367(D)×316(H)mm(縦置き時)の省スペース設計
- 横置き可能(20kgまでのディスプレイ装置の設置が可能)
- スリープ機能



管理機能

- ESMPRO/ServerAgent
- ESMPRO/ServerManager

自己診断機能

- Power On Self-Test(POST)
- テスト診断(T&D)

すぐに使える

- Microsoft® Windows® 2000 Professional 日本語版インストール済み

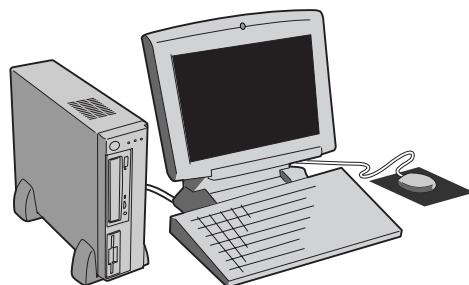
便利なセットアップユーティリティ

- EXPRESSBUILDER(システムセットアップユーティリティ)
- SETUP(BIOSセットアップユーティリティ)

拡張性

- IOオプションスロット(PCIバス×2スロット)
- 最大384MBのメモリ(DIMM×3スロット)
- USB対応(対応したドライバが必要)

前ページに示すとおりExpressワークステーションには、コンパクトなボディにさまざまな機能が搭載されています。また、ESMPROシリーズとExpressワークステーションやオプションの周辺機器との組み合わせにより情報を一元管理したり、バックアップを容易にした最適なシステムが構築できます。



本体管理

Expressワークステーションのハードウェアコンポーネントで実現している運用管理機能 / 信頼性機能を提供します。

ストレージ管理

内蔵のハードディスクと外付けのDATなどのバックアップ装置機能を提供します。テープ装置へのデータのバックアップはWindows 2000標準のバックアップの他にARCserve、BackupEXECによるバックアップも可能です。なお、バックアップ装置は別売のオプションです。

ネットワーク管理

クライアント / サーバシステムを構築した場合にネットワーク構成機器(サーバ / ワークステーション、ルータ、Hubなど)を監視し障害や過負荷状態を検出することができます。なお、ルータやHubの監視にはESMPRO/Netvisorなどの関連製品が必要です。

導入のポイント

Expressワークステーションを導入するにあたって重要なポイントを説明します。

システム構築のポイント

お使いになるシステムにExpressワークステーションを導入するにあたり、次の点について留意してください。

まずはじめにExpressワークステーション、および添付品がすべてそろっていることを確認してください（添付の構成表を参照してください）。万一、足りないものや破損しているものがあつたときは買い求めの販売店に連絡してください。また、システムを構築するために必要となる機器についても確認しましょう。

日常での運用において、Expressワークステーションの状態を管理・監視できるようなシステムを構築しておくことが望めます。

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER™」には、Expressワークステーション、およびExpress5800製品の状態を監視することができるサーバ/ワークステーション管理アプリケーション「ESMPRO®」が収録されています。ESMPROは、障害が起きたときに管理PCへ障害を通知したり、その障害内容を採取したりすることができます。

ESMPROやその他の管理アプリケーション、ハードウェアの持つ機能などを効率よく使用してシステム管理やセキュリティの強化を図ってください。

電源を入れる前に

Expressワークステーションをセットアップし、システムを構築する場合は、次の順序で行います。

ハードウェアのセットアップ

別途購入された内蔵用オプションの取り付けや、設置、添付品・外付け機器の接続などExpressワークステーションの電源をONにすることができる状態にセットアップしてください。9ページで詳しい流れを説明しています。

オペレーティングシステムのセットアップ

購入されたExpressワークステーションにはWindows 2000 Professional 日本語版がすでにインストールされています。そのまま電源をONにすればユーザ固有の情報など必要な設定を入力するだけで使用できるようになっています。

[Windows 2000 Professionalのシステムを修復する場合は . . .]

システムの修復をするときは、以下の2つの方法があります。

- システムの修復

システムの修復とは、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損した場合に、Windows 2000 セットアップブートディスクを使用して、システムを起動可能な状態にするものです。

システムの修復は、破損したファイルが修復対象となっている場合は、各種ユーティリティやユーザ情報等も保存された状態でシステムが起動可能になりますが、システムの修復を行っても、OSが完全な状態で起動されるとは限りません。その場合は次に説明するシステムのリカバリにてシステムの修復をしてください。

システム修復の方法については「運用・保守編」で説明しています。

- システムのリカバリ

システムのリカバリとは、カスタムインストールで出荷されたNEC Express5800/50シリーズについて、システム破損等の理由でOSが起動不可になった場合などに、バックアップCDを用いてハードディスクを出荷時の状態に戻すことにより、システムを起動可能にするものです。

バックアップCDを使用して出荷時状態に戻ったハードディスクは、必要最小限のセットアップを行なっているため、リカバリを行う前の各種ユーティリティやユーザ情報等は全て失われてしまいます。各種ソフトウェアについてはシステムのリカバリ後、手動でインストールしてください。

バックアップCDを用いた方法については19ページで説明しています。

管理ユーティリティのインストール

システムで検出した障害情報の管理を行うためには、ESMPRO/ServerAgentをインストールします(ESMPRO/ServerAgentは「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます)。また、ネットワーク上の管理PCからExpress5800製品の運用状態や障害情報を確認する場合は管理PCにESMPRO/ServerManagerをインストールしてください(インストールについては90ページで説明しています)。ESMPRO/ServerManagerはExpressワークステーションにインストールして使用することもできます。



添付のCD-ROMには、「ESMPRO/ServerAgent」と「ESMPRO/ServerManager」の2つのアプリケーションが含まれています。ESMPROには、その他にもさまざまな用途に応じたアプリケーションが用意されています。詳しくはお買い求めの販売店、または保守サービス会社にお問い合わせください。

障害処理のためのセットアップ

障害が起きた時に障害からより早く確実に復旧できるように、メモリダンプの設定、ワトソン博士の設定を行ないます。詳しくは14ページをご覧ください。



ヒント

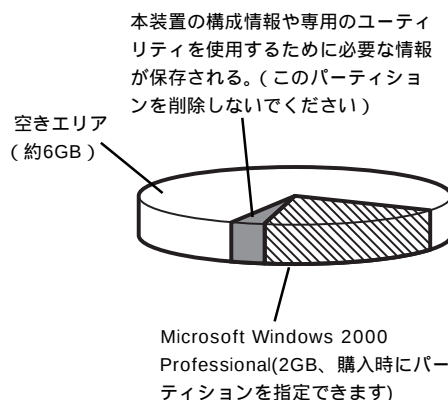
NECでは、ESMPROの他にも「エクスプレス通報サービス」と呼ばれるExpress5800製品の状態監視用サービスを用意しています。Express5800製品に障害が起きたときに自動的に保守サービス会社に通報され、保守サービス会社から保守情報の通知、または保守員の派遣などのサービスを受けることができます。エクスプレス通報サービスをご契約することをお勧めします。

購入時のハードディスクの状態と保守用パーティション

Expressワークステーションに標準装備のハードディスクにはMicrosoft Windows 2000 Professionalと保守用ユーティリティがあらかじめインストールされています。

また、約16MBほどの「保守用パーティション」がもうけられています。

「保守用パーティション」とは、Expressワークステーション特有の構成情報や専用のユーティリティを保存するために使用されるパーティションで、16MB程度の領域を内蔵ハードディスク上へ確保します(保守用パーティションは、1度作成されると以降は作成されません)。



重要

保守用パーティションは、その存在がOS上から見えることがありますが、構成情報を保持するためにもこのパーティションを削除しないでください。

Expressワークステーションのセットアップの際に保守用パーティションへ自動的にインストールされるユーティリティは、「システム診断ユーティリティ」と「オフライン保守ユーティリティ」です。

メモリの縮退機能

POST(Power On Self-Test:電源ON後の自動診断プログラム)でメモリ(DIMM)の故障を検出すると自動的に故障したDIMMを切離して運用する機能です(故障したDIMMは早めに交換することをお勧めします)。

縮退機能は、DIMMを増設し、2枚以上のDIMMでの運用中に、いずれか1つのDIMMで障害が発生した場合に有効です。

DIMMが故障するとメモリ容量が少なくなり、システムの動作速度が遅くなったり、アプリケーションを動作させることができなくなったりすることがあります。

DIMMの故障は、POSTを実行している時に表示される画面や、BIOSセットアップユーティリティ、ESMPRO/ServerManagerをインストールしている管理PC上で確認することができます。

縮退機能を自動的に有効にする場合はBIOSセットアップユーティリティの「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で「DIMM Error Pause」を「Disabled」に設定します。また、障害の発生したDIMMを交換した場合は、BIOSセットアップユーティリティを起動し、「Advanced」メニューの「Memory Reconfiguration」で「Clear DIMM Error」を選択します。

ネットワーク構築のポイント

ネットワークに接続する場合は、コンピュータ名やTCP/IPなどの設定が必要です。あらかじめ確認しておくことをお勧めします(後から変更することもできます)。

ネットワークを経由して、他のシステムからの指示によりExpressワークステーションの電源を投入(リモートパワーオン)する場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Hardware」メニューの「AC-LINK」を「Stay Off」に、「Wake On Lan」を「Enabled」に設定します。

ストレージ機能構築のポイント

本装置では、別売品のSCSIコントローラボードを搭載することにより外付けのバックアップ装置を接続することができます。バックアップ装置とバックアップツールを使って定期的に大切なデータのバックアップをとることをお勧めします。

主なバックアップツールは次のとおりです。

- Windows2000バックアップツール(Windows 2000標準)
- ARCserve(コンピュータ・アソシエイツ社)
- BackupExe(ベリタス社)

ユーザ登録

添付の「お客様登録申込書」に所定事項をご記入の上、投函してください。ユーザ登録は添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」にある「オンラインユーザ登録ツール」を利用して登録することもできます。

1. OSを起動する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をCD-ROMドライブにセットする。

マスターコントロールメニューが表示されます。

3. メニュー上の[4th [Bundle Software) をクリックする。

メニューが表示されます。

4. [オンラインユーザ登録ツール] をクリックする。

オンラインユーザ登録ツールが起動します。画面に従って登録を完了してください。



セットアップ

箱を開けてからお使いになるまでの手順について、順を追って説明します。再セットアップの際にも参照してください。

ハードウェアのセットアップ

次の順序でハードウェアをセットアップします。

1. 別途購入されたオプションのメモリやPCIボードを取り付ける。(→47ページ)
2. Expressワークステーションを使用するのに最も適した場所(環境)に設置する。(→31ページ)
3. ディスプレイ装置やマウス、キーボード、ケーブルなどの周辺装置をExpressワークステーションに接続する。(→33ページ)
4. 添付の電源コードをExpressワークステーションと電源コンセントに接続する。(→33ページ)
5. 装置の構成やシステムの用途に応じてBIOSの設定を変更する。

58ページに示す設定例を参考にしてください。

初めて電源をONにするとき

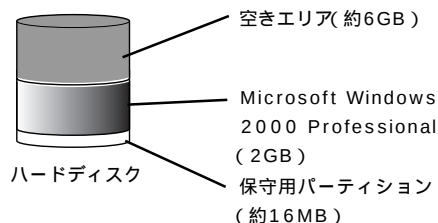
購入されたExpressワークステーションのハードディスクは、お客様がすぐに使えるようにパーティションの設定から、OS、Expressワークステーションが提供するソフトウェアがすべてインストールされています。

セットアップをはじめる前に ~購入時の状態について~

セットアップを始める前に次の点について確認してください。

Expressワークステーションのハードウェア構成(ハードディスクのパーティションサイズも含む)やハードディスクにインストールされているソフトウェアの構成は、購入前のお客様によるオーダー(ビルド・トゥ・オーダー)によって異なります。

右図は、標準的なExpressワークステーションのハードディスクの構成について図解しています。



Windows 2000のセットアップ

次の手順でExpressワークステーションを起動して、セットアップをします。

1. 周辺装置、Expressワークステーションの順に電源をONにし、そのままWindows 2000を起動する。

[Windows 2000 Professional セットアップ]画面が表示されます。

2. [次へ]ボタンをクリックする。

[使用許諾契約]画面が表示されます。

3. [同意します]にチェックをして、[次へ]ボタンをクリックする。

以降、使用者名などの設定画面が次々と表示されます。

4. 画面の指示に従って必要な設定をする。

セットアップの終了を知らせる画面が表示されます。

5. [完了]ボタンをクリックする。

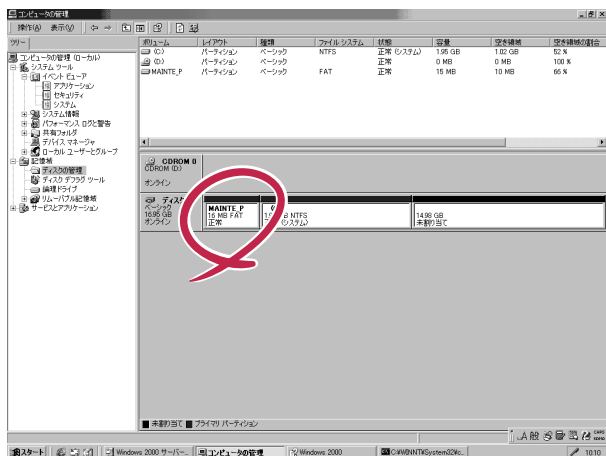
Expressワークステーションが再起動します。

以上でWindows 2000のセットアップは終了です。ログオン後、「システムのアップデート」が自動適用されます。



ディスク構成について

セットアップを完了したExpressワークステーションのハードディスク上に、「MAINT_E_P」と表示された領域が存在する場合があります。この領域は構成情報やユーティリティを保存するための保守用パーティションです。削除しないでください。



ドライバのインストールと詳細設定

OSのセットアップおよびシステムのリカバリの後、各種のドライバのインストールとセットアップを行います。

標準装備のネットワークドライバやディスプレイドライバは、購入時にインストール済みです。必要に応じてプロトコルやサービスの追加／削除を行ったり、転送速度やデュプレックスの設定、表示の設定などをそれぞれ行ってください。（これらのドライバは、システムの修復やシステムのリカバリの際にも自動的にインストールされます。）

ここで記載されていないドライバのインストールやセットアップについてはドライバに添付の説明書を参照してください。

3モードフロッピードライバ

Windows 2000では、2モードのフロッピードライバ（FAT 1.44MBと720KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能）が標準でインストールされます。

3モードのフロッピードライバ（FAT 1.44MB、1.2MB、720KB、640KBフォーマットのフロッピーディスクが使用可能）を使用したい場合は、Windows 2000のインストールが終了した後にドライバをアップデートしてください。

また、システムを修復したときやシステムをリカバリしたときにもドライバをアップデートしてください。

1. スタートメニューから[設定]を選択し、[コントロールパネル]を起動する。
2. [管理ツール]内の[コンピュータの管理]を起動し、[デバイスマネージャ]をクリックする。
デバイスの一覧が表示されます。
3. デバイスの一覧より[フロッピーディスクコントローラ] [標準フロッピーディスクコントローラ]の順でダブルクリックする。
[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]のダイアログボックスが表示されます。
4. [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
5. [デバイスドライバのアップグレードウィザード]で[次へ]をクリックし、「ハードウェアデバイスドライバインストール」画面を表示する。
6. 「ハードウェアデバイスドライバインストール」画面で「このデバイスの既知のドライバを表示して、その一覧から選択する」のボタンを選択し、[次へ]をクリックする。
「デバイスドライバの選択」画面を表示します。
7. 「デバイスドライバの選択」画面で、[ディスク使用]をクリックする。
「フロッピーディスクからインストール」のダイアログが表示されます。
8. 「C:\¥NECINST¥UPDATE¥FLOPPY¥NS」と入力し[OK]をクリックする。
「C」はシステムドライブを指定してください。
モデルに「NEC 3mode floppy disk controller」が表示されます。

9. [次へ]をクリックする。
「デバイスドライバのインストール開始」画面が表示されます。
10. [次へ]をクリックする。
ファイルのコピーが始まります。ファイルのコピー実行中に、[デジタル署名が見つかりませんでした]のダイアログボックスが表示されます。
11. [はい]をクリックする。
コピー処理が終了し、「デバイスドライバのアップグレードウィザードの完了」画面が表示されます。
12. [完了]をクリックする。
[NEC 3mode floppy disk controllerのプロパティ]画面が表示されます。
13. [閉じる]をクリックする。
[システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。
14. [いいえ]をクリックする。
15. デバイスの一覧より[フロッピーディスクドライブ] [フロッピーディスクドライブ]の順でダブルクリックする。
[フロッピーディスクドライブのプロパティ]のダイアログボックスが表示されます。
16. [ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新]をクリックする。
[デバイスドライバのアップグレードウィザード]ダイアログボックスが表示されます。
17. 以降、[標準フロッピーディスクコントローラのプロパティ]と同様の操作で実行し、[NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ]画面が表示されるまで作業を続ける。
途中で表示されるモデルは「NEC 3mode floppy disk drive」と表示されます。
18. [NEC 3mode floppy disk driveのプロパティ]画面で[閉じる]をクリックする。
[システム設定の変更]ダイアログボックスが表示されます。
19. [はい]をクリックしシステムの再起動を実行する。
再起動後、3モードフロッピードライブが有効となります。

システムのアップデート

システムのアップデートは、EXPRESSワークステーション購入時には自動で適用されていますが、システムの修復を行った場合は、必ずシステムのアップデートを行ってください。

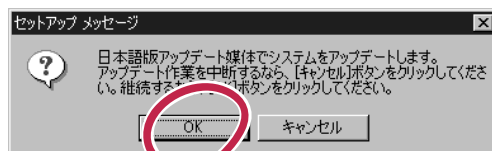
次の手順に従ってシステムをアップデートしてください。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
2. エクスプローラから C:\¥NECINST¥UPDATE¥update.exeを実行する。

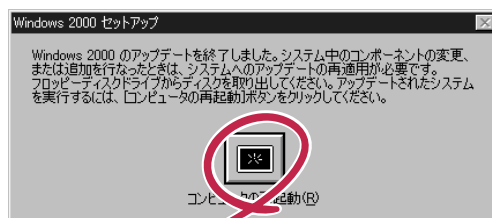
セットアップメッセージが表示されます。

3. システムのアップデートを継続する場合は、[OK]ボタンをクリックする。

[Windows 2000 セットアップ]画面が表示されます。



4. [コンピュータの再起動]ボタンをクリックしてシステムを再起動する。



障害処理のためのセットアップ

障害が起きたとき、より早く、確実に障害から復旧できるように、あらかじめ次のようなセットアップをしておいてください。

メモリダンプ(デバッグ情報)の設定

Expressワークステーション内のメモリダンプ(デバッグ情報)を採取するための設定です。

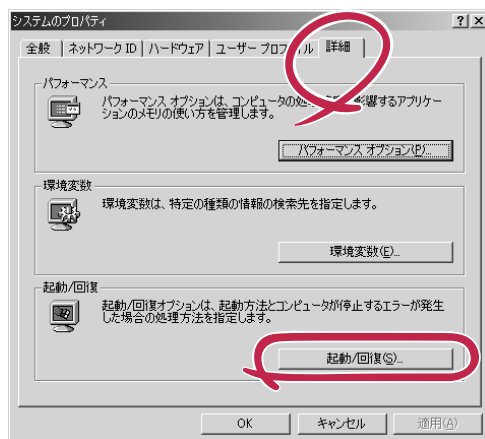


メモリダンプの注意

- メモリダンプの採取は保守サービス会社の保守員が行います。お客様はメモリダンプの設定のみを行ってください。
- ここで示す設定後、障害が発生した時にメモリダンプを保存するために再起動すると、起動時に仮想メモリが不足していることを示すメッセージが表示される場合がありますが、そのまま起動してください。起動し直すと、メモリダンプを正しく保存できない場合があります。

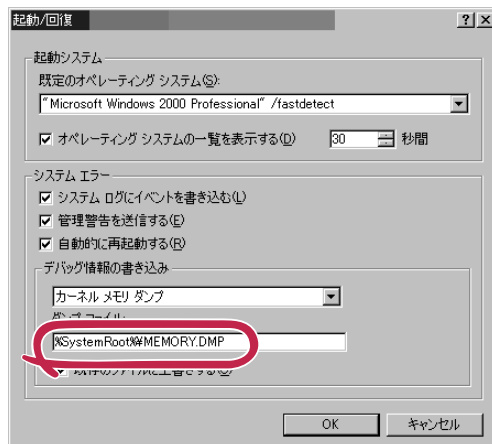
次の手順に従って設定します。

1. スタートメニューの[設定]をポイントし、[コントロールパネル]をクリックする。
[コントロールパネル]ダイアログボックスが表示されます。
2. [システム]アイコンをダブルクリックする。
[システムのプロパティ]ダイアログボックスが表示されます。
3. [詳細]タブをクリックする。
4. [起動/回復]ボタンをクリックする。



5. テキストボックスにデバッグ情報を書き込む場所を入力する。
<Cドライブに「MEMORY.DMP」というファイル名で書き込む場合>

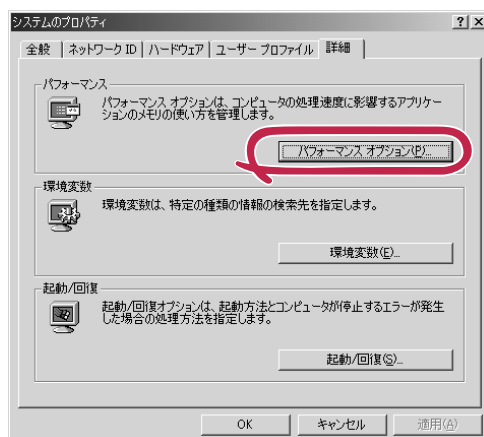
C:\¥MEMORY.DMP



重要

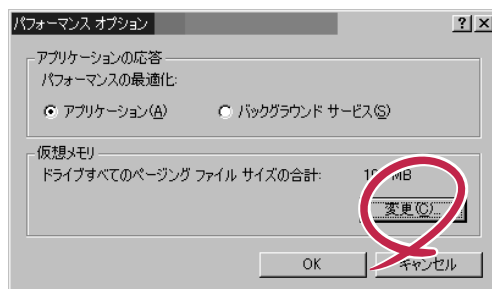
- デバッグ情報の書き込みは「カーネル メモリ ダンプ」を指定することを推奨します。
- Expressワークステーションに搭載している搭載メモリサイズ+12MB以上の空き容量のあるドライブを指定してください。

6. 「パフォーマンスオプション」ボタンをクリックする。



7. 「仮想メモリ」ボックスの「変更」ボタンをクリックする。

8. 「選択したドライブのページングファイルサイズ」ボックスの「初期サイズ」を「推奨」値以上に変更し、「設定」ボタンをクリックする。



重要

ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。「推奨」値については、「作成するパーティションサイズについて (19 ページ)」を参照してください。

9. 「OK」ボタンをクリックする。

設定の変更内容によってはシステムを再起動するようメッセージが表示されます。メッセージに従って再起動してください。

ワトソン博士の設定

Windows 2000ワトソン博士はアプリケーションエラー用のデバッガです。アプリケーションエラーを検出するとExpressサーバを診断し、診断情報(ログ)を記録します。診断情報を採取できるよう次の手順に従って設定してください。

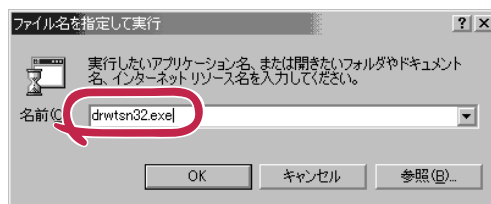


ワトソン博士の設定は、Expressワークステーション購入時、およびシステムのリカバリ実行時に自動的に設定されています。

1. スタートメニューの[ファイル名を指定して実行]をクリックする。

2. [名前] ボックスに「drwtsn32.exe」と入力し、[OK] ボタンをクリックする。

[Windows 2000 ワトソン博士] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ログファイルパス] ボックスに診断情報の保存先を指定する。

「DRWTSN32.LOG」というファイル名で保存されます。



チェック

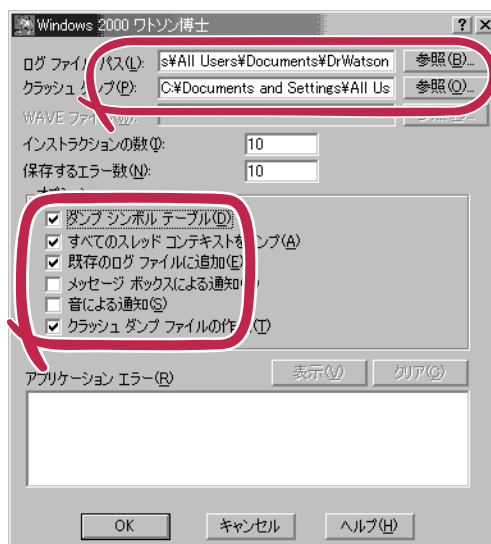
ネットワークパスは指定できません。
ローカルコンピュータ上のパスを指定してください。

4. [クラッシュダンプ] ボックスにクラッシュダンプファイルの保存先を指定する。



ヒント

「クラッシュダンプファイル」は Windows Debuggerで読むことができるバイナリファイルです。



5. [オプション] ボックスにある次のチェックボックスをオンにする。

- ☐ ダンプシンボルテーブル
- ☐ すべてのスレッドコンテキストをダンプ
- ☐ 既存のログファイルに追加
- ☐ クラッシュダンプファイルの作成

6. [OK] ボタンをクリックする。

管理ユーティリティのインストール

添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」には、本装置監視用の「ESMPRO/ServerAgent」、およびExpressサーバ・ワークステーション管理用の「ESMPRO/ServerManager」などが収録されています。これらのユーティリティは、「EXPRESSBUILDER」CD-ROMからインストールすることができます。



出荷時には次のユーティリティがインストール済みです。これらのソフトウェアはお客様のオーダーの内容によって異なります。

- ESMPRO/ServerAgent
- エクスプレス通報サービス*
- ESMPRO/UPSControlle(本ソフトウェアを購入された場合のみ)

上記のソフトウェアで「*」印のあるものは、お客様でご使用になる環境に合った状態に設定、または確認をしなければならないソフトウェアを示しています。「ソフトウェア編」の「Express本体用バンドルソフトウェア」、または装置に添付されている別冊の説明書などを参照して使用環境に合った状態に設定してください。

また、ユーティリティには、ネットワーク上の管理PCにインストールするものもあります。詳しくは第3編の「ソフトウェア編」を参照してください。



「システムのリカバリ」を実行したときは、個別にインストールしてください。

システム情報のバックアップ

システムのセットアップが終了した後、オフライン保守ユーティリティを使って、システム情報をバックアップすることをお勧めします。

システム情報のバックアップがないと、修理後にお客様の装置固有の情報や設定を復旧(リストア)できなくなります。次の手順に従ってバックアップをしてください。

1. 3.5インチフロッピーディスクを用意する。
2. CD-ROM「EXPRESSBUILDER」をExpressワークステーションのCD-ROMドライブにセットして、再起動する。
EXPRESSBUILDERから起動して「EXPRESSBUILDERトップメニュー」が表示されます。
3. 「ツール」-「オフライン保守ユーティリティ」を選ぶ。
4. 「システム情報の管理」から「回避」を選択する。
以降は画面に表示されるメッセージに従って処理を進めてください。

Windows 2000 セットアップブートディスクの作成

「Windows 2000 セットアップブートディスク」は、何らかの原因でOSを動作させるために必要なファイルが破損し、再起動できなくなった場合、このフロッピーディスクから起動し、システムを修復することができます。あらかじめ作成しておくことをお勧めします。作業を始める前に1.44MBフォーマット済みの3.5インチフロッピーディスクを4枚用意してください。

以下の手順でWindows 2000 セットアップブートディスクの作成を行います。

1. 管理者権限のあるアカウント(administrator等)で、システムにログオンする。
2. エクスプローラから「C:¥BOOTDISK¥MAKEBT32.EXE」を実行する。
「C」はシステムドライブを指定してください。
3. コピー先のフロッピードライブを指定した後、表示されるメッセージに従ってセットアップブートディスクを作成する。
以下の4枚が作成されます。
 - Windows 2000 Setup Boot Disk
 - Windows 2000 Setup Disk #2
 - Windows 2000 Setup Disk #3
 - Windows 2000 Setup Disk #4
4. 「C:¥BOOTDISK¥TXTSETUP.SIF」をWindows 2000 Setup Boot Disk にコピーする。
「C」はシステムドライブを指定してください。

重要

- 作成したセットアップブートディスクは、ラベルを貼って大切に保管してください。
- システムの修復方法は「運用・保守編」を参照してください。

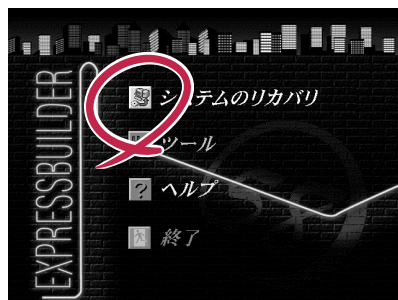
システムのリカバリ

システムのリカバリとは、カスタムインストールで出荷されたNEC Express5800/50シリーズについて、システム破損等の理由でOSが起動できなくなった場合などにバックアップCDを使ってハードディスクを出荷時の状態に戻すことにより、システムを起動できるようにするものです。



システムのリカバリをする前にシステムの修復を試してみてください。詳しくは「運用・保守編」をご覧ください。

システムのリカバリは添付のCD-ROM「EXPRESSBUILDER」のメニューから起動します。「システムのリカバリ」を選択すると、Windows 2000 Professionalのリカバリが開始されます。



「システムのリカバリ」は、実行するとハードディスクの各種ユーティリティやユーザ情報が失われます。ハードディスク内に保持したいデータがある場合は、「ツール」をご利用ください。

作成するパーティションサイズについて

システムをインストールするパーティションの必要なサイズは、次の計算式から求めることができます。

$$\begin{aligned}
 &1000\text{MB} + \text{ページングファイルサイズ} + \text{ダンプファイルサイズ} \\
 &1000\text{MB} \quad \quad \quad = \text{インストールに必要なサイズ} \\
 &\text{ページングファイルサイズ(推奨)} = \text{搭載メモリサイズ} \times 1.5 \\
 &\text{ダンプファイルサイズ} \quad \quad \quad = \text{搭載メモリサイズ} + 12\text{MB}
 \end{aligned}$$



- パーティションサイズの設定範囲は2048MBからハードディスクの容量までです。ハードディスクの容量を超えた値を指定するとパーティションのサイズは「2048MB」で確保されます。
- ページングファイルサイズを「推奨」値未満に設定すると正確なデバッグ情報を採取できない場合があります。

例えば、搭載メモリサイズが512MBの場合、必要最小限のパーティションサイズは、上記の計算方法から

$$1000\text{MB} + (512\text{MB} \times 1.5) + (512\text{MB} + 12\text{MB}) = 2292\text{MB}$$

となります。

リカバリの準備

作業を始める前に次の媒体を用意します。

- EXPRESSBUILDER(CD-ROM)
- バックアップCD-ROM Disc1,2
- 1.44MBフォーマットの3.5インチフロッピーディスク1枚

リカバリの手順

以下の手順でシステムのリカバリを行います。

1. EXPRESSBUILDER CD-ROMで起動する。
2. 「システムのリカバリ」をクリックする。
3. メッセージに従って続ける。

4. 以下のメッセージが表示されたら、フォーマット済のブランクフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入する。

「セットアップパラメータFDを挿入してください」



チェック

ライトプロテクトはしないでください。



5. 「情報ファイル選択/入力」ダイアログが表示されたら、[ファイル名]欄に任意のファイル名を入力し、[確定]ボタンをクリックする。
6. 以下のメッセージが表示されたら、ハードディスク全体にパーティションを確保する場合は[はい]ボタンを、パーティションサイズを指定する場合は[いいえ]ボタンをクリックする。

システムのパーティションをハードディスク全体に確保しますか？
いいえを選択すると、パーティションサイズを指定することができます

[はい]を選択した場合は手順8へ、[いいえ]を選択した場合は手順7へ進んでください。

7. 「パーティションサイズ」ダイアログが表示されたら、パーティションサイズを入力し、[OK]ボタンをクリックする。



ヒント

パーティションサイズの設定範囲は2048MBからハードディスクの容量までです。ハードディスクの容量を超えた値を指定するとパーティションのサイズは「2048MB」で確保されます。

8. 画面に表示される指示に従って操作する。

9. 以下のメッセージが表示されたら、バックアップCD-ROM Disc1をCD-ROMドライブに挿入し、[OK]ボタンをクリックする。

「バックアップCD-ROM Disc1 を CDドライブに挿入してください。」

画面が切り替わり、システムのリカバリが開始されます。

10. 以下のメッセージが表示されたら、バックアップ CD-ROM Disc2をCD-ROMドライブに挿入し、デバイスのアクセスランプが消灯したら [OK]ボタンをクリックする。

Insert next media and press enter to continue...



チェック

CD-ROMを挿入してアクセスランプ消灯前に続行した場合、読み込みエラーのダイアログが表示されるので、[Retry]ボタンをクリックしてください。

11. 以下のメッセージが表示されたら、バックアップCD-ROM Disc2 と手順4で挿入したフロッピーディスクを取り出して、[OK]ボタンをクリックする。

ここまでのシステムのリカバリが終了しました。
CD-ROMドライブから バックアップCD-ROM Disc2 を取り出してください。
フロッピーディスクが挿入されている場合はフロッピーディスクも
取り出してください
再起動後、オペレーティングシステムのインストールが開始されます。

システムが再起動します。再起動後、一時的なWindows 2000が自動でセットアップされます。一時的なWindows 2000のセットアップが終了し、ログオン時に以下のメッセージが表示され、しばらくすると自動的に再起動されます。

環境を構築後、自動的にシャットダウンします。

システムが再起動し、Windows2000のセットアップを開始します。

12. 画面に表示される指示に従って操作する。

以上でWindows 2000のリカバリは完了です。ログオン後、「システムのアップデート」画面が表示されますので、13ページ手順3以降を参照してアップデートを実行してください。以降は、「ドライバのインストールと詳細設定(11ページ)」以降の説明を参照してセットアップのための各種設定を行ってください。



重要

ESMPROなどの各種管理ユーティリティのインストールは、OSセットアップ終了後 EXPRESSBUILDER CD-ROMなどを使用して個別にインストールしてください。

